

【14】 入胎・出胎・出家・成道・入滅の月・日に関する伝承系統

[1] 以上紹介してきた入胎・出胎・出家・成道・入滅の月日について文献ごとに整理し、表にしておく。月はともかく日は8日か15日が多いので、8日系と15日系に分けておいた。

[1-1] 原始聖典

文献	入胎		期間	出胎		出家		成道		入滅	
	8日	15日		8日	15日	8日	15日	8日	15日	8日	15日
遊行経				2月		2月		2月		2月	
白法祖・泥洹				4月		4月		4月		4月	
失訳・泥洹				4月		4月		4月		4月	
根本有部・雑事			10月								

[1-2] 仏伝経典

文献	入胎		期間	出胎		出家		成道		入滅	
	8日	15日		8日	15日	8日	15日	8日	15日	8日	15日
Nidānakathā		4月	10月		2月		4月		2月		
修行本起経	4月		10月	4月		4月					
太子瑞応本起経				4月		4月					
普曜経			10月								
異出菩薩本起経				4月							
仏本行集経			10月	2月				*1			
十二遊経				4月				4月			
仏所行讚				4月							
過去現在因果経	4月		10月	4月	2月	2月		2月			
方广大莊嚴経	*2		10月								

* 1 = 2月23日 * 2 = 2月

[1-3] インド撰述文献

文献	入胎		期間	出胎		出家		成道		入滅	
	8日	15日		8日	15日	8日	15日	8日	15日	8日	15日
Dīpavaṃsa					2月						2月
Mahāvāṃsa								2月			2月

Samantapāsādikā											2月
善見律毘婆沙											2月
薩婆多毘尼毘婆沙				2月				2月			
鞞婆沙論			10月								
般泥洹經											2月
涅槃經 (40卷本)				2月		2月		2月			2月
涅槃經 (36卷本)				2月		2月		2月			2月

[1-4] 中国撰述文献

文献	入胎		期間	出胎		出家		成道		入滅	
	8日	15日		8日	15日	8日	15日	8日	15日	8日	15日
釈迦譜	4月		10月	4月		2月		2月		2月	
歴代三宝紀	4月			2月		4月		2月			2月
法琳別伝		7月		2月 4月		4月					2月
大唐西域記	5月	5月		3月	3月	3月	3月	3月	3月	9月	3月
慈恩三蔵法師伝										9月	2月
釈迦氏譜	4月			4月		2月		2月			2月
釈迦方志	5月	5月		3月	3月			3月	3月	9月	3月
仏祖統紀	4月		10月	4月		2月		2月			2月

[1-5] その他文献

文献	入胎		期間	出胎		出家		成道		入滅	
	8日	15日		8日	15日	8日	15日	8日	15日	8日	15日
ビルマ仏伝					2月				2月		2月
Sāsanavaṃsa		4月	10月		2月				2月		
Jinakālamāli		4月	10月		2月		4月		2月		

[2] 以上の表によって、入胎・出胎・出家・成道・入滅の日付についていくつかの系統があることがわかる。

[2-1] まず月はともかくとして、日にちの方では8日とする伝承と、15日とする伝承の2つに分れる。15日とするものは『善見律毘婆沙』を含む南方伝承であり、8日とするのは北伝系の伝承であることができる。

[2-2] しかしながら『大般涅槃經 (40卷本)』『大般涅槃經 (36卷本)』『般泥洹經』は他の出胎・出家・成道を2月8日とするにかかわらず、入滅のみを2月15日とする

(1)。これらは特異な伝承というべきであるが、中国撰述文献では『歴代三宝紀』『法琳別伝』『釈迦氏譜』『仏祖統紀』があり、これらは上記の『大般涅槃經（40巻本）』などの影響を受けたものと考えられる。

(1) 『涅槃經』自身は「如十五日月無虧盈、諸仏如来亦復如是、入大涅槃無虧盈、以是義故、於十五日入般涅槃」という。大正12 p.545上（40巻本）、p.790下（36巻本）

[2-3] また系統として入胎はおくとして、出胎・出家・成道・入滅を同じ月とする系統と、異なるとする系統に分れる。異なるとする系統は南方伝承であって、同じとする系統は北方伝承とすることができる。

すなわち南方伝承は入胎と出家を4月15日とし、出胎と成道と入滅を2月15日とする。

これに対して北方伝承は出胎も出家も成道も入滅も2月、あるいは4月、あるいは3月とするのであって、原始聖典としての『遊行經』『白法祖訳・泥洹經』『失訳・泥洹經』などや、インド撰述の『大般涅槃經（40巻本）』『大般涅槃經（36巻本）』、あるいは多くの北伝系仏伝經典は入滅の月日を記さないが、これに属する。

中国撰述文献は2通りに分け、『大唐西域記』や『釈迦方志』は北伝系に属する。しかし『歴代三宝紀』は南伝系に属し、『法琳別伝』もこれに含めてよいかもしれない。

しかし『釈迦譜』『釈迦氏譜』『仏祖統紀』は入胎・出胎を同じ月とし、出家・成道・入滅を異なる月とする特殊例である。

[2-4] しかし入胎から出胎までの胎内にあった期間はすべて「10ヶ月」とするのであるから、そもそも入胎の月と出胎の月が同じというのはおかしい。これでは12ヶ月になってしまうからである⁽¹⁾。そこで『釈迦譜』『釈迦氏譜』『仏祖統紀』などの入胎月をそのまま尊重するとすれば、出胎月は2ヶ月早まることとなり、そうすれば北伝系の伝承と同じとなる。おそらくこれらは入胎と出胎が混同したのであろう。

(1) 『仏祖統紀』は次のように言う。「前言四月八日降胎、今言四月八日出胎。並出因果經。南山云、降胎出胎、皆言四月八日。則是十二月在胎文。今此文言十月満足者、且約人間十月懷妊為言、若仏所行讚經、則云三月八日生、此皆誤人用歷。兩土不同、然内外典籍。多言四月八日」と。しかしいかにも苦しい解釈であるといわなければならない。おそらくここにいわれるように、『過去現在因果經』や『修行本起經』からボタンの掛け違いが始まったのであろう。大正49 p.142上

[2-5] 以上のように考えると、北伝系の伝承では、出胎も出家も成道も入滅も同じ月ということになるが、これに「2月」説、「4月」説、「3月」説が混在していることとなる。

まず「3月説」は『大唐西域記』に源泉があると思われるが、これは【論文2】で考察したように、ヴァイシャーカ月の白分の中国暦への換算がずれた故であって、通常の換算では「2月」となる。

おそらく「4月」も同じくヴァイシャーカ月の白分を指すのであって、インド暦から中国暦への換算の際に生じた誤差であって、上述したように2月とすべき月である。実は南方伝承で2月15日としたのは、この月の白分の15日であって、したがってすべては同じ「2月」を指し示しているとしてよい。

[2-6] したがって伝承系統を大きく分けると

(1) 入胎と出家を4月15日（アーサール八月の白分第15日）、出胎・成道・入滅を2月15日（ヴァイシャーカ月の白分第15日）とする南方伝承

(2) 出胎・出家・成道・入滅のすべてを2月8日（ヴァイシャーカ月の白分第8日）とする北方伝承

の2つとなる。

他に『大乘涅槃経』の系統に属するものや、成道を2月23日とするなど、他の特異な伝承があるが、これはとりあえず無視してよいであろう。

[3] さて本総合研究としてどちらの系統を尊重すべきであろうか。いずれにしてもこれら日付に関しては原始聖典に典拠を見いだすことは難しく決め手に欠く。しかし本研究は漢巴共通の伝承がない場合はパーリの伝承を優先させるという姿勢に立つのであるから、ここでも南方伝承を尊重しなければならない。以上の資料は原始聖典資料ではないとはいえ、南伝の原始聖典資料を基礎として形成された伝承であろうからである。

しかもその方が合理的であるというはっきりした証拠も存する。パーリ聖典には出家後の苦行を「7年」とするものがあり、それは「足掛け7年」であることは【3】の[2-2]で述べた通りである。しかし北方伝承のように、出家月日と成道月日が同じであるとする、ちょうど「満6年」となり「足掛け7年」にはならない。したがってパーリ聖典の云う「足掛け7年」を合理的に解釈するためには、出家と成道の日時が異なる南方伝承によらなければならないこととなる。

以上のような理由で、必ずしもそれが歴史的事実であったとはいえないが、本研究では釈尊の入胎と出家は4月15日（アーサール八月の白分第15日）、出胎・成道・入滅は2月15日（ヴァイシャーカ月の白分第15日）という南方伝承にのっとりすることとする。